

# やすらぎ

第32号

平成29年8月1日発行

岐阜市民病院 代表電話 058-251-1101 ホームページ <http://gmhosp.jp/>



## 理念

### 心にひびく医療の実践

- ### 基本方針
- 患者さんの権利を尊重し、心温まる医療を行います。
  - 安全で信頼されるチーム医療を行います。
  - 地域の医療機関と連携し、患者さん中心の継続した医療を行います。
  - 地域の中核病院として、最新かつ高度な医療を提供できるよう努めます。
  - 職員が生き生きと働くことができる環境づくりに努めます。
  - 病院の理念を理解し、専門性を持った人材を育成します。



新人スタッフによる入職の誓い（雲雀ヶ丘公園にて）

## 医療と介護

病院長 富田 栄一

八年後の二〇二五年は、団塊の世代が全員七十五歳以上になるため、医療費を含めた社会保障費が急激に増え、少子化の影響で現役世代が減り、医療・介護の担い手が不足することから「二〇二五年問題」と言われています。また、すでに日本の人口は減少しており、二〇六〇年には総人口が九千万人を割り込み、少子高齢化もさらに進むことから、高齢化率（六十五歳以上が総人口に占める割合）は現在より十ポイント以上増え、四十%近くになると推計されています。現在、国ではこれらの問題に対応し、今後も医療と介護を切れ目なく提供するため、来年四月の診療報酬と介護報酬の同時改定に向けて話し合いが行われています。

介護という言葉は、昔はあまり使われていませんでした。今から七十年前、団塊の世代が生まれた頃の一九五〇年の年齢別死亡数を見ると、男性・女性ともに七十〜七十四歳が最も多くなっており、多くの家庭の父親、母親が七十代で亡くなっていたと思われる。そのため、親の介護を経験する人が少なく、介護という言葉が広く使われていなかったのではないでしょう。

うか。二〇一五年の年齢別死亡数を見てみると、男性は八十〜八十四歳が、女性は八十五〜八十九歳が最も多くなっており、確実に寿命が延びていることがわかります。寿命の延伸に伴い介護が必要な方が増え、少子高齢化により老老介護、介護現場の人手不足等の問題が顕在化してきています。

さて介護が必要となるきっかけには、脳卒中や骨折などがあり、認知症もその一つになります。当病院では、この四月から「岐阜県基幹型認知症疾患医療センター」として指定を受けており、今後さらに増えると思われる認知症に対して、病院だけでなく、地域全体の認知症への対応力向上を図るべく支援・教育を行ってまいります。

また、がんに罹患する人が増加する中、地域がん診療連携拠点病院として高度で質の高い、がん医療を提供するため、本年秋季から最新の内視鏡手術支援ロボット「ダヴィンチX」による手術を開始すべく、現在、準備を進めております。これにより、今まで以上に精密で体への負担が少ない手術が可能となります。

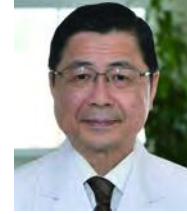
今後も、かかりつけの先生方や地域の医療機関、介護施設等と今まで以上に連携を図り、情報を共有する等、地域全体で切れ目なく患者さんを支える仕組みづくりに努めてまいります。

# 認知症疾患医療センターの開設

認知症疾患医療センター長 犬塚 貴

岐阜県基幹

型認知症疾患  
医療センター  
として、県知  
事から四月一



犬塚センター長

日に遡って指定をうけました。当センターは国の「新オレンジプラン」に則り、認知症の患者さんが地域で安心して生活ができるように、適切な医療、介護、福祉のサポートを受けられる体制整備の上で、重要な施設として開設しました。

スタッフは、神経内科医師二名（犬塚、里見）、臨床心理技術者一名、認知症看護認定看護師一名、精神保健福祉士一名、社会福祉士一名と多職種協働体制です。

超高齢社会となり、六十五歳以上の高齢者の十五％の方が認知症、さらに十三％の方がその予備軍と推定されています。認知症は単にもの忘れだけでなく、様々な生活障害が生じ、環境の変化や体の不調によって混乱に陥り、周囲との適切な関わりが難しくなることがあります。かかりつけ医と専門医療機関、さらに介護福祉機関が協働し対応する必要があります。岐阜県に

は五つの各医療圏に地域型認知症疾患医療センターが設置され、これを中心に認知症の方への対応がなされており、岐阜医療圏では、岐阜病院と黒野病院が地域型センターの指定を受けており、総合病院、認知症を専門とする医療機関、かかりつけ医、地域包括支援センター等と連携し、認知症の方への医療や生活支援を行う仕組みが整備されつつあります。当病院には基幹型センターとして、こうした仕組みをさらに支援する役割が期待されています。具体的には、

◆認知症の方でBPPSD（暴言・暴力・幻覚・妄想・せん妄・昼夜逆転・不潔行為・抑うつ・閉じこもりなど）があり、かつ身体合併症の急性期に対する専門的な治療を行います。急性期病院である当病院ではこのようなケースに日常的に対応しておりますが、一般病棟入院の場合、困難なこともあります。これをサポートするために当センターの認知症ケアチームが定期的に病棟ラウンドを行います。  
◆認知症の鑑別診断（血液検査、神経学的検査、神経心理検査、MRI、脳血流シンチグラムなどの画像検査、髄

液検査等による）と、かかりつけ医への診断と治療に関する情報提供を行います。このため火・水・木の午後、内科外来6診で、「もの忘れ外来」を実施しています（要予約・要紹介状、二〜数回の来院が必要です。診断後の治療はかかりつけ医のもとで行うことを原則にしています）。

◆認知症専門の相談員による、患者さんとご家族の不安や悩みの相談（専用電話：058-251-5871（直通）、平日午前九時から午後五時十五分）を受け、適切な支援が受けられるように地域の医療機関や福祉施設と連携をとり調整します。

◆岐阜県の医療関係者や介護福祉関係者等の認知症に関する知識や技術、体験を共有し、認知症対応力の向上を図るため研修を行います。

## 「もの忘れ外来」のご案内

診 察 日	火・水・木
診察時間	午後のみ
診 察 室	内科外来6診
<p>受診には予約が必要です。 かかりつけ医の紹介状を お持ちください。</p>	

◆市民に向け認知症に関する情報発信を行います。

◆認知症に関する調査と研究を行うこと等です。

病院全体の認知症対応力を高め、主治医や担当ナースだけが悩むことなく、認知症の患者さんの尊厳を護りつつ、適切な治療ができるように努力して参りますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。



## 認定看護師のお仕事 小児救急看護認定看護師

今枝 保江

認定看護師とは、日本看護協会の認定看護師認定審査に合格し、ある特定の看護分野において熟練した看護技術と知識を有することが認められた者で、二十一の認定分野があります。私はその中の一分野である小児救急看護認定看護師として活動しています。小児救急看護認定看護師は、救急時の子どもの病態に応じた迅速な救命技術の

提供や、受診した子どものトリアージの実施、育児不安や児童虐待への対応を専門分野としています。

私は救急診療部に所属し、救急車で搬送された子どもや、救急外来を受診した子どもとその保護者の対応をしています。当病院の救急外来は、小児夜間急病センター、休日急病センターを併設しているため、毎日たくさんの子どもの受診があります。そのほとんどが軽症例ですが、緊急で治療や処置が必要な状態の子どもが紛れていることがあります。そのため、緊急度の高い子どもがより早く適切な治療や処置を受けられるように優先度を決めるトリアージを実施しています。救急外来の看護師が受診時の子どもの状態を正しく評価し、根拠に基づいたトリアージができるように研修を開催して知識や技術を伝え、事後検証や振り返りを行いトリアージの精度が向上するよう活動しています。

また近年、児童虐待の増加が社会問題となっています。医療機関は、虐待を受けた子どもが虐待によるケガや体調不良などで受診することが多く、早期発見のための重要な場であるといわれています。看護師が虐待の兆候にいち早く気付けるよう、救急外来をはじめとする院内看護師を対象に児童虐待の研修を開催して知識を広め、早期発見のための啓発を行っています。

### 新任部長のご紹介

肝・胆・膵センター長 長田 真一



長田センター長

平成二十九年四月より、開設されました「肝・胆・膵センター」に着任いたしました。三月までは、岐阜大学の肝胆膵・がん集学的治療学講座にて、当該領域の外科治療と基礎研究に携わっておりました。胆膵（胆嚢・胆管および膵臓）系の向井強医師、肝系の林秀樹医師ら内科医師の強力なバックアップをもち、外科系の佐々木義之医師とともに、診断から処置および治療までを一貫して担い、岐阜医療圏のみならず東海地区においても信頼される病院を目指し日々鋭意努力しております。よろしく願います。

さて日本では、国民の約二人に一人が何らかのがんに罹患し、さらに三人に一人はがんで亡くなっているのが現状であります。その総合的な治療内容としては、近年の新規抗がん剤の開発・発展により、根治が困難であるとされてきた固形癌、特に胃癌や大腸癌といった消化器癌においても、治療成績が著しく改善してきております。しかしながら、罹患率と死亡率がほぼ同

等である胆膵癌や、肝炎ウイルスの啓蒙・駆逐により死亡数の上昇が制御されたとはいえ依然として高頻度に発症しうる肝癌など、治療に難渋し医療進歩の恩恵を甘受しきれないのが、肝胆膵領域であるといえます。この部位における癌は、残念ながらいかなる抗がん剤に対する感受性も低く、解剖学的特性から早期発見が困難であるのみならず切除にあたっては高度の技能が必須で、さらに術後合併症が重篤であることが、難治性としてその治療ハードルを著しくあげているとされております。

このような状況の中、当センターでは、肝癌に対しては、高い技術的レベルを誇る凝固治療に習熟し国内でも広く評価され続けてきた実績のみならず、系統的な切除を定型化し、安全でスピーティ、を中心概念とした手術による身体的負担の軽減に努めております。

また胆膵癌に対しては、きめ細やかでかつ大胆な診断技術を追求めし、さらに近年外科系学会などにて注目されてきた切除に至るアプローチの一新に関する持論を積極的に早期導入することでも過不足のない摘出範囲の特定や、合併症軽減を目指した新しい手技・再建法を提案。そしてまた、理論的で一貫性のある周術期管理の徹底など、いずれもスタイリッシュで斬新な方法を進

めております。

また症例の集約化による経験値の維持と、集積した豊富なデータから得られる信頼性の高い情報を国の内外を問わず発信してゆくことで、さらなる改善・発展を目指すことを常としています。内科的な知恵・理論と外科系の技術・経験を両輪として、この医療圏の方々の診療に貢献したいと考えております。

一方、同過程において、若手医師の教育と専門医の育成のみならず、メデイカルスタッフとの意思疎通を図ることでチーム医療の充実も目標とし、先進的かつ高品質なシステムの確立とその拡張を目指したいと考えております。詳細については、いつでもお問い合わせください。

### 肝・胆・膵 センター 外来担当のご案内

初診担当医				
月	火	水	木	金
岩佐／河口	西垣／佐々木	西垣／長田	向井／三田	林／市川

**低線量肺CT検査のご案内  
健康管理センター**

当病院の人間ドックでは昨年度より最新型320列CTを使用し、放射線被ばくを低減した胸部CT（低線量肺CT）検査を開始しました。

**肺がんとは？**

肺がんは肺に発生する悪性腫瘍で、ある程度進行してからでない症状が現れにくく、発見された時にはすでに進行しているケースもあります。

がんが進行していると、その時点で効果的な治療を行うことができないため、早期発見が重要で、早期発見された場合は手術や放射線治療などが期待できます。

当病院では、肺野型の早期肺がんを発見するために、放射線被ばくを低減した低線量肺CT検査を行っています。

低線量CT検査の被ばく線量は従来のCT検査の約四分の一で、低線量肺CT検査を受けて被ばくしたことにより、新たにがんが発生したという報告は今までのところありません。

**検査の利点**

この検査で、肺がんが早期に発見さ

れた場合、早期に適切な治療を受けることが可能となり、肺がん以外の呼吸器の疾患（結核、肺気腫、気管支拡張症など）や、肺以外の疾患（胸部大動脈瘤、胸腺腫など）が発見されることもあります。

**検査の欠点**

喫煙習慣のある人や喫煙歴のある人を対象に胸部CT検査を行うと、三〜六割の人に何らかの異常が見つかることが報告されています。この検査で異常が見つかったとしても、結果的に肺がんでないこともあり、異常な影には肺がんと非常にまぎらわしいものもあります。確定診断するために、気管支鏡生検などの精密検査や、定期的な経過観察が必要となる場合があります。

**検査全体にかかわる重要事項**

検査結果が陰性であっても、その後、肺がんにならないというわけではありません。進行の速い肺がんの場合、次回の検査までの間に自覚症状で見つかることもあります。また、太い気管支に発生する肺門型肺がんや、進行が非常に速い小細胞肺がんなど、低線量肺CT検査では発見されにくい種類の肺がんもあります。

肺がんが心配な方は、受診を検討されてはいかがでしょうか？

**人間ドック オプション検査のご案内**

検査名	料金(税込)
胸部CT検査	18,900円
肺がんドック (胸部CT検査+喀痰細胞診)	20,000円



低線量肺CT検査で使用する320列CT

**編集後記**

読者のみなさん「やすらぎ」第32号が完成しました。本号では、認知症疾患医療センター開設について、小児救急看護認定看護師の紹介、新任部長の紹介、低線量肺CT検査のご案内を掲載いたしました。

その他に、現在、岐阜商工会議所発行の「月報」に当院の医師が健康情報を毎月提供しております。機会がありましたら、一度ご覧ください。

編集部一同



**外来診療のご案内**

- 診療科目・・・内科、糖尿病・内分泌内科、精神科、神経内科、呼吸器・腫瘍内科、消化器内科、血液内科、循環器内科、腎臓内科、小児科、外科、乳腺外科、整形外科、脳神経外科、呼吸器外科、心臓血管外科、皮膚科、泌尿器科、産婦人科、眼科、耳鼻いんこう科、頭頸部外科、リハビリテーション科、放射線科、麻酔科、病理診断科、臨床検査科、歯科、歯科口腔外科

●休診日

土・日・祝日と12月29日～1月3日  
\*詳細はホームページでも紹介しています。  
市民病院ホームページ <http://gmhosp.jp/>

